

令和2年度
東京都現代美術館美術資料収蔵委員会
評価部会

令和3年1月27日（水）

東京都現代美術館

午後 2 時 02 分開会

大森文化施設担当課長：それでは、委員の皆様おそろいになりましたので、始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから令和 2 年度東京都現代美術館美術資料収蔵委員会評価部会を開催いたします。

私は、東京都生活文化局文化振興部文化施設担当課長の大森と申します。よろしく願いいたします。着座にて失礼します。

まず、本日御出席いただきました委員の皆様を御紹介させていただきたいと思います。私の向かって左の席から御紹介させていただきます。

石井孝之委員でございます。

千葉由美子委員でございます。

児島やよい委員でございます。

平野到委員でございます。

佐谷周吾委員でございます。

長門佐季委員でございます。

前山裕司委員でございます。

南雄介委員でございます。

事務局職員を御紹介いたします。

東京都現代美術館副館長の茂木でございます。

同じく現代美術館事業企画課長の加藤でございます。

同じく現代美術館事業係長の森でございます。

よろしく願いいたします。

それでは、お手元の資料の御確認をお願いいたします。

まず、会議次第がございます。

資料 1 「東京都現代美術館美術資料収集方針」

資料 2 「令和 2 年度東京都現代美術館収集候補作品一覧表」

資料 3 「作家・作品説明書」

資料 4 「東京都現代美術館美術資料収蔵委員会設置要綱」

資料 5 「評価部会委員名簿」

最後に、「評価部会評価表」でございます。

もし過不足あれば、事務局のほうにお伝えいただければと思います。

なお、配付いたしました資料につきましては、後ほど回収させていただきますので、よろしく願いいたします。

今回の評価対象資料の価格評価に対する議事は、「東京都現代美術館美術資料収蔵委員会設置要綱」第 11 により非公開となります。

当部会の議事録については、同要綱第 11 の第 2 項の定めに従い、美術資料収集決定の後に、

公開を予定しております。公開に当たっては、委員の皆様には個人情報など公開に差し障りのある内容がないか追って確認させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速議事に入ります。

まず、本日、審議いたします収集作品の説明をお願いいたします。

茂木副館長：収集作品について、これより御説明をいたします。

本日、審議をお願いいたします作品は、購入が12点、寄贈が4件です。

これら作品の収集につきましては、午前中実施のコレクション部会で承認されております。作品の詳細は、事業企画課長の加藤、事業係長の森及び担当学芸員から御説明いたします。よろしくお願いいたします。

加藤事業企画課長：では、まず、資料1の資料収集方針につきまして御説明をさせていただきます。

（「東京都現代美術館資料収集方針」について説明）

次に、個別の作品につきましての御説明に入りたいと思います。

まず、私のほうから資料の収集の候補といたします理由につきまして主に御説明をさせていただきました上で、この後、作品を実際に御覧いただく場にて、さらにそれぞれの担当者より作品個別の詳しい説明をさせていただくことにいたします。

作品の説明に関しましては、資料2の一覧表及び3の作家・作品説明書、個別の資料と併せて御覧いただければと思います。

まず、購入のNo. 1から7につきまして、オラファー・エリアソンの作品になります。

こちら、まず、収集No. 1が「人間を超えたレゾネーター」という作品でございます。

そして、2から7が同じシリーズの作品ございまして、「クリティカルゾーンの記憶（ドイツーポーランドーロシアー中国ー日本）」となっております。

当館では、これまで同時代の海外作家の作品につきまして、現代性や国際的な評価に基づき継続的に収集し、紹介してまいりました。エリアソンは20年以上にわたり現代美術を牽引し、現在最も影響力のある作家の一人でございます。本作は、エリアソンの作品を特徴づける光を用いたインスタレーション作品の最新作であり、今回、ドローイングとともに収蔵することで収蔵作品との多様な組合せを可能にするため、幅広い来館者層の期待に応えられるものと考えております。

そして、さらにNo. 2から7ですが、No. 1からNo. 7まで全て、先だっの当館で開催いたしましたオラファー・エリアソン展の出品作でございます。そして、この出品作としまして、光のインスタレーションとともに、このドローイング作品を併せて収蔵することで、収蔵作品と多様な組合せを可能にするという点で、やはり、同じく幅広い来館者層の期待に応えられるような展示を構成する上で必要と考えております。

では、次に、購入No. 8の作品になります。

こちらはダムタイプの「TRACE/REACT II」という2020年の作品で、やはりこちらも先だっ開催いたしましたダムタイプ展の出品作品の一つとなっております。

日本を代表するメディアパフォーマンスグループの国際的活動評価と当館の個展の実績を併せて、この作品を収蔵するという事で進めてまいりたいと思っております。この作品はその個展の折に新作として制作されたものでございます。

次に No. 9、10 の2点でございます、こちらは藤井光の映像作品となります。

まず、9番の「核と物」、2019年の作品でございます。そして、10番が「解剖学教室」、2020年の作品で、こちらは昨年開催をいたしました展覧会の出品作でございます。藤井光は、近年国内外で評価が高まっております、2015年には日産アートアワードでグランプリを受賞、2020年にはTokyo Contemporary Art Awardを受賞したほか、海外のビエンナーレや国際展での制作、展示を行っております。そうした日本の現代美術を牽引する作家の一人として評価をしたいと考えております。

「解剖学教室」と、「核と物」というのは非常に密接に関連する作品でございます、2020年の「解剖学教室」を制作します前段として、この2019年の「核と物」という作品を制作しているものでございまして、この2点を併せて収蔵することで今後の多様な活用の可能性というものを十分に開くものと考えております。

次に、収集候補の11番、長谷川繁の作品でございます。こちらは、作品名が空欄になっておりますが、これはミスではなく、作品名が「無題」ということもつけない、空欄、作品名がないという作家の意向によるものでございます。制作年は2007年でございます、長谷川繁は、日本の美術史においては、1990年代半ばから展開される具象絵画の新しい展開の担い手として、同じくデュッセルドルフで学び、既に収蔵作家となっている奈良美智、O J U N、村瀬恭子らと並び重要な作家であると考えております。

近年、当館では90年代以降に活動を開始した世代の絵画作品を継続して収集してきましたが、その流れに大きな影響を与えた画家の一人としても、長谷川の収集は欠かせないものと考えております。

絵画史を形式の集積と捉え、それらを参照しつつ展開してきた長谷川の作品は、絵画とは何かという美術史の大きな問いを引き受けるものとして、当館の既存の収集作品と組み合わせた様々な活用が期待できるものと考えております。

そして、収集候補作品の12番が、Chim↑Pomの作品になります。

「May, 2020, Tokyo (大久保駅前) -青写真を描く-」というものでございます。当館では、このChim↑Pomについて、同作家の作品を既に2点所蔵しております、中でも「BLACK OF DEATH」、2007年から8年の作品になりますが、こちらは特に東京に関する優れた作品として活用されております。同一作家の初期作品に加えて、それ以降の充実した仕事を収蔵するという事は、その制作の厚みを見せ、現代美術の理解を深めるということに寄与するであろうと考えます。

本作は、無まさに新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2020年の4月から発出された緊急事態宣言により外出自粛がうたわれた中で屋外で制作されたものでございます。そうしたこれまでにない、まさに無二のタイミングという意味では、その時代を捉えた東京、その肖像であ

り、当館で収蔵する意味というものがあると考えております。

戦後美術から現代まで、現在形の美術活動をカバーする当館におきましては、広いスパンでの活用も十分期待できるものと考えております。まさに、この時代を象徴する作品の一つと考えております。

以上が購入作品でございます。

続きまして、No. 13 から 16 は寄贈作品でございます。

寄贈作品の No. 13、14 がオラファー・エリアソンでございまして、こちらは、作家がグリーンランド沖で採集した氷河の氷を素材とする水彩画のシリーズになっておりまして、やはり、さきの購入候補の作品と併せまして、作家のコンセプトを最も明確に示す、そうした作品の一つとして、様々な活用が見込まれるものでございます。

次に No. 15 となります。

こちらは、勝井三雄のポスター一括、100 枚でございます。この 100 枚の作品につきましては、添付しております勝井三雄ポスターという添付資料がございまして、こちらに 100 枚の写真を掲載しております。

この勝井三雄というデザイナーの活動を通じまして、日本の 20 世紀のアートとデザインというものを提示できる重要な資料、作品の一群であると考えておりまして、当館でも田中一光展、柏木博氏の監修になります安藤忠雄氏の建築デザインとなった展覧会がございましたが、図録のデザインにも従事したゆかりのある作家でもあり、当館のコレクションに位置づけるにふさわしい作品資料であると考えております。

そして、16 番になります。

こちらにもポスターの作品 24 点でございます。この 24 点につきましても、お手元に一覧の資料を添えさせていただきます。

こちらは「HIROSHIMA APPEALS」のポスター一括でございまして、「HIROSHIMA APPEALS」というのは、日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）ヒロシマ平和創造基金、広島国際文化財団が主催となり、1983 年から開始されているプロジェクトでございまして、それぞれの時代で一人のデザイナーが選ばれ、1983 年の亀倉雄策をはじめとして、2020 年に至るまでの一連の作品を一括して御寄贈いただくものでございます。

この中に現在展示をさせていただいております石岡瑛子のポスターも含まれておりまして、それを含めまして、日本を代表するデザイナーのポスターを一括して観覧できるものとして御寄贈のお申出を受けたいと考えているものでございます。

以上が 16 作品の説明とさせていただきます。

以上です。

大森文化施設担当課長：ありがとうございます。

それでは、これから会場を移動して作品の検分をしていただきたいと思いますけれども、会場でも御質問等々受け付けられますが、この場で何か事前に確認しておきたいことございますでしょうか。大丈夫でしょうか。

それでは、御足労ですけれども、会場を移動して作品の検分をお願いします。

(委員離席)

(作品検分)

(委員着席)

大森文化施設担当課長：それでは、作品を御覧いただきまして何か御意見、御質問ございましたら、お願いいたします。

よろしいでしょうか。御意見ございましたら、途中でも構いませんので挙手をお願いいたします。

それでは先に、評価方法の御説明をさせていただきます。

お手元の評価表に金額を記載していただきまして、署名をいただきます。評価額の最高価格と最低価格を除いた残りの平均値を評価額とさせていただきます。金額は全て税込みのものを御記載ください。評価方法について、何か御質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、お手元のボールペンで御記入をお願いしたいと思います。御記入が終了した方は、挙手いただければ係員が評価表を回収させていただきますので、よろしくをお願いいたします。係員による確認後、御退席いただいて構いません。確認完了をもって、委員会終了とさせていただきます。

先ほども申し上げましたとおり、お配りした資料一式は回収させていただきますので、そのまま机の上に置いたままで構いませんので、よろしくをお願いいたします。

(委員評価書記入)

午後 3 時 13 分閉会

以上